

八雲抄

四

八重抄身之十

以田

朱

虫

人事

吳名

鳥

魚

衣食

指此

獸

人編

雜抄



八雲抄巻第三下

未納

阿波國文庫

不忍文庫

未 人 歳 日 月 日 月 日 月 日 月

まはるといふもとりきりておもしろいこと
の極なるなりとてあきらむるべし

生るる終るは世の常なり
物終るは世の常なりとてあきらむるべし

まはるといふもとりきりておもしろいこと
の極なるなりとてあきらむるべし

まはるといふもとりきりておもしろいこと
の極なるなりとてあきらむるべし

まはるといふもとりきりておもしろいこと
の極なるなりとてあきらむるべし

まはるといふもとりきりておもしろいこと
の極なるなりとてあきらむるべし

まはるといふもとりきりておもしろいこと
の極なるなりとてあきらむるべし

まはるといふもとりきりておもしろいこと
の極なるなりとてあきらむるべし

八雲抄

二一

明く大いなる物事抄ねん

そのまじりたるは 海女さくらをうさぐ縁くるとい

せぬといひり 花のよとくを花地獄のりかあり

梅ももつを命く見海女 万九七日自志とて死す

しめりを信の徳也 ちかむわらうの梅の月夜

海女は梅のしりさかむとてくらくのさ死のくまあり

わひとてらりし梅ひさいりよまあり也

梅さくらうさぐとてくらくのかりとてあつとてさく

われも梅梅とらりわらうとて死すといく也

死 ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ

ゆらとくまをこれ梅道梅うさぐ

こそあそめさりうさぐ 久玄 ちか

とてあそめさりうさぐ ちかむ ちかむ ちかむ

ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ

柳 ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ

ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ

柔らきの冬乃やうさぐ ちかむ 柳の眉

柳の目 柳の糸 似糖もゆるとてふ

いなじり ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ

ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ

よりのきくがさるるいけいけの原に松の木の

飛 入らるる松のきく 王母松 松のきく

松 入らるる松のきく 王母松 松のきく

あきえうー松とさり うへ松 松 松

とて松とさる松はこよるくにわらこくまの松

ゆへなり 加松うー松とさり 松の松とさる

とて松とさる松はこよるくにわらこくまの松

天年八年大奇高城と松松松 生 河津松 生 松

揚武鏡人松松よる松ゆへ松じく松人のとさる

とさり 松松松松松松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松松松松松松松松松松

たまはるる海に死するにせしむるに云はれ也

種 万のうらみたるはらさるり 井のうらみ 月のうらみ

櫛 紀述にうらみたるあはれみこころあはれ也

物 ありらむ ぬららむ ぬららむ 細凍る多也

祭 うら 祭ま けま けま

柳 やま うちこの祭 死るにむ 柳

李 万のうらみたるにむ 死るにむ 死るにむ

柳 万のうらみたるにむ 死るにむ 死るにむ

柳 万のうらみたるにむ 死るにむ 死るにむ

照天孫天乃をうらむるにむ 死るにむ 死るにむ

らららむるにむ 死るにむ 死るにむ

いのちのうらみたるにむ 死るにむ 死るにむ

中のうらみたるにむ 死るにむ 死るにむ

しやのうらみたるにむ 死るにむ 死るにむ

乃わららむるにむ 死るにむ 死るにむ

業 万のうらみたるにむ 死るにむ 死るにむ

櫛 ありらむ ありらむ ありらむ

櫛 ありらむ ありらむ ありらむ

推 ありらむ ありらむ ありらむ

果 ありらむ ありらむ ありらむ

下 ありらむ ありらむ ありらむ

櫛 ありらむ ありらむ ありらむ

櫛 ありらむ ありらむ ありらむ

柳子 万のこしらへん

^栲 一丸

安不智 万のこしらへん

^楊 万のこしらへん

黄楊 万のこしらへん

樞 万のこしらへん

万のこしらへん

校子 万のこしらへん

校子 万のこしらへん

校子 万のこしらへん

校子 万のこしらへん

校子 万のこしらへん

校子 万のこしらへん

校子 万のこしらへん

校子 万のこしらへん

校子 万のこしらへん

校子 万のこしらへん

校子 万のこしらへん

校子 万のこしらへん

校子 万のこしらへん

校子 万のこしらへん

校子 万のこしらへん

校子 万のこしらへん

無三下

ちりり... 可^レらぬ

後撰書... 海鏡よ

未^レく... あり

海鏡よ... 松

と... 梅

ら... 海鏡よ

る... 可^レ十七

い... 可^レ勿^レ

可^レ志... 又^レ板

可^レ志... 柳

可^レ志... 又^レ板

可^レ志... 梅

可^レ志... 山

可^レ志... 可^レ十八

可^レ志... 可^レ十九

可^レ志... 可^レ二十

可^レ志... 可^レ二十一

可^レ志... 可^レ二十二

可^レ志... 可^レ二十三

可^レ志... 可^レ二十四

可^レ志... 可^レ二十五

可^レ志... 可^レ二十六

可^レ志... 可^レ二十七

とていふにむら部をわたりて海にわたるは年夏
ふりたるせんもふなり也 又新なること
ふたえしむも又わたりて枝よもさくもいなり
又方をとりの道よりふりて山にたどりてく
まらぬいさくも也なりなりハ風掃たるぬき
鷹 羽 八井柳のさきよ風さく海にこよのまらぬ
二月よくふりたり 流しゆくめよかきりなり也
見方袋 方よけいよふも云 ちんじんとい
るなり 朝よる海をこめわたりて入るは山を
こゆるなりとよめり海にこよもさくもわらぬ
まくとゆきくかりと称と云 方よけいよふも云 ちんじん

ちんじんなり也 方よけいよふも云 ちんじん
初又字よ九月とわり九月もがはしなりなり
ぬきく 九らとら役も種袋なりなりなりなり
まらぬいさくも也なりなりなりなりなりなり
又もくとんよふもいさくもいさくもいさくも
あいらしむも也なりなりなりなりなりなり
かりなり 羽新也鳥も云よはらとらなりなり
とよたういさくもいさくもいさくもいさくも
村よりさきくちりちりちりちりちりちりちり
そくへのちせもなり かり ちんじん ちんじん
こもゆきくちんじんなりなりなりなりなりなり

Handwritten notes in the left margin, including the number '11' at the bottom.

雄

揚野南左守
膳流鴉灼然
啼爾之毛將哭
已母利豆麻可母

うさぎころころとさかすか
かきくきくき
はまのうさぎ
日記曰 ちんちん
しんじゆ乃使わめしんじゆ乃家のうさぎ乃うさぎ
わさぎのうさぎと日記曰 ちんちん

うさぎころころとさかすか
かきくきくき
はまのうさぎ
しんじゆ乃使わめしんじゆ乃家のうさぎ乃うさぎ
わさぎのうさぎと日記曰 ちんちん
うさぎころころとさかすか
かきくきくき
はまのうさぎ
しんじゆ乃使わめしんじゆ乃家のうさぎ乃うさぎ
わさぎのうさぎと日記曰 ちんちん

千鳥 河海よりしんじゆ乃家のうさぎ乃うさぎ
わさぎのうさぎと日記曰 ちんちん
うさぎころころとさかすか
かきくきくき
はまのうさぎ
しんじゆ乃使わめしんじゆ乃家のうさぎ乃うさぎ
わさぎのうさぎと日記曰 ちんちん
うさぎころころとさかすか
かきくきくき
はまのうさぎ
しんじゆ乃使わめしんじゆ乃家のうさぎ乃うさぎ
わさぎのうさぎと日記曰 ちんちん

よむらるる鳥やうむうらんこも鳥入るひのたか

乃さこゆる かきるる とさ

鶏 いづれをとり 付木縛ち候に候は也 産流らり 百

八条乃らり ぐさく業 併務相流 うをる

万七 げのこをたれたれおらり 礼 かせ

世 ちるそしほし 世 ちるそしほし 世 ちるそしほし

世 よわをぬと 世 わをぬと 世 わをぬと 世 わをぬと

大物極み鳥よあへいづれを鳥の目ひ終らり

ゆづれを 世 いづれを 世 いづれを 世 いづれを

鶯 いづれを いづれを あらわらり

いづれを 世 いづれを 世 いづれを 世 いづれを

よならりくる鳥は 世 よならりくる鳥は 世 よならりくる鳥は 世 よならりくる鳥は

雀 いづれを いづれを 世 いづれを 世 いづれを 世 いづれを

鳥 いづれを いづれを 世 いづれを 世 いづれを 世 いづれを

わさ 世 月夜 世 月夜 世 月夜 世 月夜

世 月夜 世 月夜 世 月夜 世 月夜

鶏 世 月夜 世 月夜 世 月夜 世 月夜

鶏 世 月夜 世 月夜 世 月夜 世 月夜

物 世 月夜 世 月夜 世 月夜 世 月夜

世 月夜 世 月夜 世 月夜 世 月夜

世 月夜 世 月夜 世 月夜 世 月夜

世 月夜 世 月夜 世 月夜 世 月夜

已下 伯常子

かこうふり の海より のことしうんちの海
 流るるし せうんせ とわおるなり 海より
 大羽と見らるとも くらとふ 海の西 こひとふ
 うふようきるなり

大正世
 山鶴 海乃とつとむ 海 もいながるる 大正世
その他を

ひりりめとさま妻あ山乃をい魚こくゆること
 知るるいさわたりと 万屋まゝのいさな
 上よはまうひさしてか あつちの

海 あらとめ いさな あらと死わ取 海ま

凡とかさ くらとめ いさな のこひさひあえくなく
十世
 多り海撫かて取のさくせ月と二とす

ての指えいばどくちてと書乃く巻くかた
 城よるにわく

精 海より 赤ういも いせい ち海ま いせい

大正世
 此く いさな 海ま いせい ち海ま いせい

大井 柱 いさな ち海ま いせい

うふら いさな ち海ま いせい
 鴨 見えさ いさな ち海ま いせい 見えさ いさな ち海ま いせい

ち海ま いせい ち海ま いせい

鴨 くらとめ いさな ち海ま いせい

鴨 わく いさな ち海ま いせい

おと乃 いさな ち海ま いせい

可八云云乃云云のこいりあきまよふに
せぬこそこのうたをれと云云
おのれは母と云云
お乃かよよと云云

吾妻をの事なまむこり孫御の御ま

再拜之候
おのれ

おのれは白きくもや物目のこり

わらじり味と紙十依世たり可しと云云

わらじり味と紙十依世たり可しと云云

わらじり味と紙十依世たり可しと云云

わらじり味と紙十依世たり可しと云云

わらじり味と紙十依世たり可しと云云

わらじり味と紙十依世たり可しと云云

わらじり味と紙十依世たり可しと云云

わらじり味と紙十依世たり可しと云云

わらじり味と紙十依世たり可しと云云

わらじり味と紙十依世たり可しと云云

わらじり味と紙十依世たり可しと云云

わらじり味と紙十依世たり可しと云云

わらじり味と紙十依世たり可しと云云

わらじり味と紙十依世たり可しと云云

わらじり味と紙十依世たり可しと云云

わらじり味と紙十依世たり可しと云云

まを是とてさると是れ彼の家不知といふ
推之共らふくくくくくくくくくくくく

黙然

鹿をさ紙 林は抄 未五世の

いあひまをさひるあつとくくくくくく

かこぬくあつとまを鹿乃この州どらりくえ

ひさうらうをさうりかると 又古物まを

可丸わさうれと鹿乃ほまをさうりくくくく

はまをさうりくくくくくくくくくくく

そいひくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく

きさうせ 山ひくくくくくく

然あのものこくくくくくくくく

あうらうくくくく 日中或る後乃くくく

きうくくくくくく 海舟大捕云くくく

とらぬくくくくく ねくくくくくく

らわくくくくく 月九のせり わくく

うくくくくく じくくくくくく たるくく

まくくくく ねくくく ぬくくく

きくくくく ねくくく ぬくくく

まくくくくくく ぬくくくくく

ぬくくくくくく ぬくくくくく

入るのよま よま

菟 う 月乃うら 月の平よま

猫 ねこ

鼠 ねずみ われ終 月の終

魁 せき 子細在 他卷 平文之也

狸 り くら くら

出 い 松 まつ 鈴 すず ころ ころ ひら ひら 交 まじ

後撰よりすくわさ

松交けら

松交けら

松交けら

松交けら

松交けら

松交けら

松交けら

松交けら

松交けら

松交けら

松交けら

那云くちのち夕よらんめくあく物也不_レ然_レ之_レ也
不知_レ万紫_レ有_レ花_レ朝_レ夕_レよあくと_レいつら

際

こゝろ、わづらひ、こゝろ

ららよあくとわあり ききこゝろと云るへてはこゝろ

こゝろ こゝろと云るへてはこゝろ

襷

こゝろあはと お月乃こゝろあはと

也 こゝろを他也

收

りなり火_レを_レ無_レ風_レ信 ふいふいふ

又どくふいふ

晴

夕よあはとこよ乱_レ飛_レ物_レ也 夕く連よいつら

うきこらいつら

蝶

くも乃あはとひとあはとあはとあはとあはとあはと

あはとあはとあはとあはとあはとあはとあはとあはと

あはとあはとあはとあはとあはとあはとあはとあはと

是くも乃あはとあはとあはとあはとあはとあはとあはと

あはとあはとあはとあはとあはとあはとあはとあはと

あはとあはとあはとあはとあはとあはとあはとあはと

蝶

あはとあはとあはとあはとあはとあはとあはとあはと

あはとあはとあはとあはとあはとあはとあはとあはと

蚕

あはとあはとあはとあはとあはとあはとあはとあはと

あはとあはとあはとあはとあはとあはとあはとあはと

あはとあはとあはとあはとあはとあはとあはとあはと

搜神記曰朽
善年為蚕
之化也

恒織 こゝろを成すこと

喙 ちやうど鳥のくちばし

揚 あつちやうと

地 わやめと

在縁 成英疏細巻をのり

わ わやめと

貝物 貝物

い いろ

魚 魚

魚 魚

魚 魚

魚 魚

魚 魚

魚 魚

魚 魚

魚 魚

魚 魚

魚 魚

魚 魚

魚 魚

魚 魚

魚 魚

鉤

つらわの さまさ 飯河 さま乃入のなまふ

あり 河白く 飯河 さまさ まつらのわら

津田の 飯河 釣物とくめは さま今のかん浦也

水魚 十舟の系把さうらうら乃わー乃 飯河くえ

さしはく さまさ さまさ さまさ さまさ

鰐 やつ乃乃目ふ さまさ さまさ さまさ さまさ

鯨 くらうららさまさ さまさ さまさ さまさ さまさ

鯨 しがさうららさまさ さまさ さまさ さまさ さまさ

鯨 わら乃さささまさの入口 さまさ さまさ さまさ さまさ

鯨 河まひのささまさ わの把 わさびん

海月 さあ月 くらを乃乃乃乃

鯨 くらめ之 日中紀日鉤針合のく さまさ さまさ さまさ さまさ

人 人 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯

人 神 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯

涙 山 わまかり くら なたみ くらゆさ

雲乃上 くら くら わさ くら くら くら くら

河さ いせ 飯河 かつ とま川の 中 くら

くらさめ くら くら くら くら くら くら くら くら

くらに くら くら くら くら くら くら くら くら

くら川 くら くら くら くら くら くら くら くら

くら川 くら くら くら くら くら くら くら くら

くら川 くら くら くら くら くら くら くら くら

△春の

△秋の

△冬

△夏

△春

△秋

△冬

△夏

△春

△秋

△冬

△夏

△春

△秋

△冬

△夏

△春

△秋

△冬

△夏

△春

△秋

後
すま
ふ
東
都
あ
え

世に
人
人
後

夫
妻

夫
妻

夫
妻

夫
妻

夫
妻

夫
妻

夫
妻

夫
妻

夫
妻

夫
妻

夫
妻

夫
妻

夫
妻

夫
妻

夫
妻

三十三

三十三

夫
妻

三十三

名^名近^近の^のい^いま^ま 愛^愛の^のい^いま^ま

は^はま^ま あ^あの^のい^いま^ま

神^神み^みの^のい^いま^ま あ^あの^のい^いま^ま

男^男女^女の^のい^いま^ま あ^あの^のい^いま^ま

乃^乃の^のい^いま^ま あ^あの^のい^いま^ま

は^はま^ま あ^あの^のい^いま^ま

神^神信^信と^と後^後海^海 あ^あの^のい^いま^ま

史^史と^とみ^み あ^あの^のい^いま^ま

と^とい^い あ^あの^のい^いま^ま

妻^妻と^と海^海 あ^あの^のい^いま^ま

伝^伝と^と乃^乃 あ^あの^のい^いま^ま

紫^紫と^と海^海 あ^あの^のい^いま^ま

物^物り^りと^と乃^乃 あ^あの^のい^いま^ま

夫^夫と^と乃^乃 あ^あの^のい^いま^ま

あ^あと^と乃^乃 あ^あの^のい^いま^ま

史^史 あ^あの^のい^いま^ま

男^男 あ^あの^のい^いま^ま

い^いと^と乃^乃 あ^あの^のい^いま^ま

乃^乃と^と乃^乃 あ^あの^のい^いま^ま

乃^乃と^と乃^乃 あ^あの^のい^いま^ま

乃^乃と^と乃^乃 あ^あの^のい^いま^ま

乃^乃と^と乃^乃 あ^あの^のい^いま^ま

其母の世に 見たりと ねむの思ひ

大女世に 志乃とそまの 毎りに 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

世に 志乃とそまの 志乃とそま

うはら ばいさめいひひといち

孫 まねた ぬさ ぬじき

いづるたじきめいさるん
孫をむくこととていふ

（大正世）
こころのさくらさくら
こころのさくらさくら

世 わらひいと ぬさ ぬじき

照村 あしらのや
あかね とりこら入大と物具共討度し

物 せよ わさ 五 さくろ 基後鏡 極とつし

すまろ ともせ ぬさ ぬじき

とついさる ぬさ ぬじき

とついさる ぬさ ぬじき

とついさる ぬさ ぬじき

とついさる ぬさ ぬじき

とついさる ぬさ ぬじき

とついさる ぬさ ぬじき

とついさる ぬさ ぬじき

とついさる ぬさ ぬじき

とついさる ぬさ ぬじき

とついさる ぬさ ぬじき

とついさる ぬさ ぬじき

とついさる ぬさ ぬじき

とついさる ぬさ ぬじき

とついさる ぬさ ぬじき

とついさる ぬさ ぬじき

初めは

ふまにふれ

古

は

新

法合

学

遊

舞

歌

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

白 魚 ぬつと云 ぬら 廿 三ひら

眩せをうじま

老 おいさ 蘇すの 老らく 老らく

清せいふふめめややららとと云云一一統統

新しん食しき部ぶ

を わまま乃乃と

と ぬぬささよよううと

ふの志しる

と 書しき

奇きいいららぬ

ららふふとと云云

ぬぬままををめ

と 志しは

かかささ方方

そそくくつつささせせののし

ささああくくとと云云

波なみののゆゆめめららとと云云

ふふささとと云云

ままくくとと云云

あありりとと云云

こことと云云

ひら

老らく

老らく

一一統統

を

と

ふの志しる

と 書しき

奇きいいららぬ

ららふふとと云云

ぬぬままををめ

と 志しは

かかささ方方

そそくくつつささせせののし

ささああくくとと云云

波なみののゆゆめめららとと云云

ふふささとと云云

ままくくとと云云

あありりとと云云

こことと云云

海へうら 万非附とちりて万班系とちりて 其のちりて

紅乃御一がのかりのひ乃やゆのちるわさ

すこそめ 傷又の勝志とて人万さくくくくくくくくくく

みこそらふんくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くちる人んくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

紅くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

也 は原のくくくく 官位と上 あけのち位 凡くくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

か くくくく くくくくくくくくくくくくくくくくくく

絹 是糸 じゆくくくくくくくくくくくくくくくくくく

わ くくくく くくくくくくくくくくくくくくくくく

ぬ のぬ くくくくくくくくくくくくくくくくくく

あ くくくく くくくくくくくくくくくくくくくくく

ゆ くくくく くくくくくくくくくくくくくくくくく

わ くくくく くくくくくくくくくくくくくくくくく

く くくくく くくくくくくくくくくくくくくくくく

く くくくく くくくくくくくくくくくくくくくくく

く くくくく くくくくくくくくくくくくくくくくく

く くくくく くくくくくくくくくくくくくくくくく

く くくくく くくくくくくくくくくくくくくくくく

く くくくく くくくくくくくくくくくくくくくくく

く くくくく くくくくくくくくくくくくくくくくく

世 このころに 蛭翼 このころに

袖

袂

袖

志乃の持 見たり 方 一 じり びり じり びり
 かしら 乃 すすり 乃 の とも あり あり あり あり
 白紗衣 せいのし 衣

衾

衾 すすり 乃 あり あり あり あり あり あり あり あり
 すすり 衾 すすり 衾 すすり 衾 すすり 衾 すすり
 すすり 衾 すすり 衾 すすり 衾 すすり 衾 すすり

紙 いし ち ち
紙は 紙は 紙は 紙は 紙は 紙は 紙は 紙は 紙は 紙は

帯

帯 すすり 乃 あり あり あり あり あり あり あり あり
 すすり 帯 すすり 帯 すすり 帯 すすり 帯 すすり
 すすり 帯 すすり 帯 すすり 帯 すすり 帯 すすり

下帯

下帯 すすり 乃 あり あり あり あり あり あり あり あり
 すすり 下帯 すすり 下帯 すすり 下帯 すすり 下帯 すすり
 すすり 下帯 すすり 下帯 すすり 下帯 すすり 下帯 すすり

裳 下 すすり 乃 あり あり あり あり あり あり あり あり
 すすり 裳 すすり 裳 すすり 裳 すすり 裳 すすり 裳 すすり
 すすり 裳 すすり 裳 すすり 裳 すすり 裳 すすり 裳 すすり

綿 すすり 乃 あり あり あり あり あり あり あり あり
 すすり 綿 すすり 綿 すすり 綿 すすり 綿 すすり 綿 すすり
 すすり 綿 すすり 綿 すすり 綿 すすり 綿 すすり 綿 すすり

後 すすり 乃 あり あり あり あり あり あり あり あり
 すすり 後 すすり 後 すすり 後 すすり 後 すすり 後 すすり
 すすり 後 すすり 後 すすり 後 すすり 後 すすり 後 すすり

糸 すすり 乃 あり あり あり あり あり あり あり あり
 すすり 糸 すすり 糸 すすり 糸 すすり 糸 すすり 糸 すすり
 すすり 糸 すすり 糸 すすり 糸 すすり 糸 すすり 糸 すすり

海をなみの しのころとそめのの 海を かんころ
わさひく たいこののんぬくころと 今松
綿 ちるぬひのほろく ちるころと

布 ちるぬわさくころかた 陸奥松本云もちゆくもちり

わしはし ちるぬへの 和細齊世 ちるぬ 陸奥

ころとそほころと 陸奥

総 ちるぬの命い ちるぬ 陸奥 年のわたさ 大正世

いの ちるぬ 和細齊世 ちるぬ 陸奥

酒 けりニカマセ ちるぬ 和細齊世 ちるぬ 陸奥

へせ ちるぬ 和細齊世 ちるぬ 陸奥

ち ちるぬ 和細齊世 ちるぬ 陸奥

ちるぬ 和細齊世 ちるぬ 陸奥

酒 酒さのち ちるぬ 和細齊世 ちるぬ 陸奥

飯 ち ちるぬ 和細齊世 ちるぬ 陸奥

ちるぬ 和細齊世 ちるぬ 陸奥

菜 菜の ちるぬ 和細齊世 ちるぬ 陸奥

日 ちるぬ 和細齊世 ちるぬ 陸奥

菜 菜の ちるぬ 和細齊世 ちるぬ 陸奥

ちるぬ 和細齊世 ちるぬ 陸奥

海 海 ちるぬ 和細齊世 ちるぬ 陸奥

ちるぬ 和細齊世 ちるぬ 陸奥

ちるぬ 和細齊世 ちるぬ 陸奥

合口
 ありて取入名曰
 天鶴取^世
 亦述り在^世
 遊きの堂^世
 五波^世
 日記

ひう^白万車 今換^世
 屋^五子^七

是^七徳^七 ぬり^七 七夕^七

舟具^七 舟^七

舟^七 舟^七

舟^七 舟^七

舟^七 舟^七

舟^七 舟^七

舟^七 舟^七

舟^七 舟^七

舟^七 舟^七

舟^七 舟^七

舟^七 舟^七

疊 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

海仙疊也

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃

乃

乃

乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃

乃

乃

乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

はつらほまう

一級群行特別法
尺振も強く

出のしまう
うせぬよふと
響ののこる

舞 あまよひ

柳乃

五世

紫のい路乃

わよひ

梅

あひの

推本造るるを

は

五世

あまよひ

聖賢

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

第一 あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

あまよひ

いん 絨^世まよ^世楊^世らる^世也
平のうらと^世多^世り

纏^世ゆ^世木綿^世。い^世さ^世え^世ん^世な^世也
い^世ら^世清^世ら^世り

ま^世ま^世い^世ふ^世 あ^世ら^世い^世ふ^世 大^世ぬ^世さ^世 小^世ぬ^世さ^世

い^世ふ^世さ^世ぬ^世 わ^世ら^世ま^世ら^世く^世 木綿也^世 わ^世ら^世ま^世ら^世く^世 古^世糸

あ^世ら^世あ^世ま^世い^世 ^世己上二本綿 ^世乃^世し^世い^世ふ^世 ^世い^世ふ^世ら^世り^世

さ^世う^世ま^世ら^世校^世よ^世あ^世ら^世か^世り^世を^世と^世い^世ら^世ま^世い^世ふ^世や^世

標 あ^世め^世 あ^世め^世あ^世し^世 る^世ま^世あ^世め^世 わ^世ら^世い^世の^世ら^世

い^世ふ^世ま^世あ^世く^世 わ^世ま^世ら^世く^世あ^世り ^世平^世て^世月^世之^世

裏 乃^世ら^世い^世ふ^世あ^世し^世と ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世

あ^世く^世さ^世ら^世あ^世う^世く^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世

あ^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世

ゆ^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世

い^世ふ^世乃^世 あ^世ら^世い^世ふ^世 わ^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世

あ^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世

あ^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世

杖^世あ^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世

松^世拍^世桂^世あ^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世

い^世ふ^世あ^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世

金^世わ^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世

な^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世

こ^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世

あ^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世

あ^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世 ^世乃^世ら^世い^世ふ^世

火 入り いふとさくひん いんげんせ ちん ちん

わつとさく つと ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

かろ

縁方 わさむら 八かとり 物鏡よわらせ

紫 いろこ わらこ うきと

朱 海みこい

い介 わき くらも いろい 山あひ ともこ

ととみ 志おそめがねい ちり 是を長捕抄

きりいりよ ちり 海 柳か ひりい

笑途 ^{目下} くらり 平さん 後河は笑運といり

極樂 人を云らぬ 柳か 志をさるこいあり 又海成云

并反上 柳本より 志のよる 志の志とく 志念の

とあるとも 柳らん 志とく 志とく 志とく 志とく

志とく 志とく 志とく 志とく 志とく

異名部

帝主 志とく 志とく 志とく 志とく

柳らん 志とく 志とく 志とく 志とく

柳らん 志とく 志とく 志とく 志とく

ひりい 志とく 志とく 志とく 志とく

柳らん 志とく 志とく 志とく 志とく

大文 志とく 志とく 志とく 志とく

大月山 志とく 志とく 志とく 志とく

志とく 志とく 志とく 志とく

院 朝冠 志とく 志とく 志とく 志とく

院よのりつとく

源氏よのりつとく

御下 ともや乃山

法皇 千載序曰 ぬのともや乃山

ともや乃山 ぬのともや乃山

海へき乃山

海へき乃山 群行以系

いしき乃山

いしき乃山 月夜交 わりと海

いしき乃山 月夜交 わりと海

いしき乃山 月夜交 わりと海

いしき乃山 月夜交 わりと海

親王 播磨よのりつとく

親王 播磨よのりつとく

親王 播磨よのりつとく

親王 播磨よのりつとく

親王 播磨よのりつとく

親王 播磨よのりつとく

親王 播磨よのりつとく

親王 播磨よのりつとく

親王 播磨よのりつとく

親王 播磨よのりつとく

親王 播磨よのりつとく

親王 播磨よのりつとく

三位 三河 志保 三河 志保

四位 志保 志保 志保 志保

五位 志保 志保 志保 志保

六位 志保 志保 志保 志保

七位 志保 志保 志保 志保

八位 志保 志保 志保 志保

九位 志保 志保 志保 志保

十位 志保 志保 志保 志保

十一位 志保 志保 志保 志保

十二位 志保 志保 志保 志保

十三位 志保 志保 志保 志保

十四位 志保 志保 志保 志保

十五位 志保 志保 志保 志保

十六位 志保 志保 志保 志保

十七位 志保 志保 志保 志保

十八位 志保 志保 志保 志保

十九位 志保 志保 志保 志保

二十位 志保 志保 志保 志保

二十一位 志保 志保 志保 志保

二十二位 志保 志保 志保 志保

二十三位 志保 志保 志保 志保

二十四位 志保 志保 志保 志保

二十五位 志保 志保 志保 志保

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

神代卷 神代卷

にまゝにやいりて

あまの石くさひ

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

神代卷

くろくさひのめのんあや

くろくさひのめをさすよひのなま

わびとひろく わびと

わびとひろく わびと

ひとさぬーの神ト

雄略の神長をさす

ういあさひの

ういあさひの ういあさひの

あさひのつとまら

あさひのつとまら あさひの

あさひのまひの

あさひのまひの あさひの

あさひの

あさひの あさひの

あさひの

あさひの あさひの

あさひの

あさひの あさひの

あさひの

あさひの あさひの

あさひの

あさひの あさひの

あさひの

あさひの あさひの

あさひの

あさひの あさひの

あさひの

あさひの あさひの

あさひの

あさひの あさひの

あさひの

あさひの あさひの

あさひの

あさひの あさひの

あさひの あさひの

114
5
4

3
1
4

阿波のひこ あまのひこ わまのひこ わまのひこ

あまのひこ あまのひこ わまのひこ わまのひこ

仙 せん 仙 せん 仙 せん 仙 せん

をの をの をの をの をの をの をの をの

滞 滞 滞 滞 滞 滞 滞 滞

八海 八海 八海 八海 八海 八海 八海 八海

阿波國文庫

以上 以上 以上 以上 以上 以上 以上 以上

判 判 判 判 判 判 判 判

[Faint background text]

かまのこころをきかぬは

あふらうらもあふらうら

仙の乃と能く山へ入るる山

をのめとれくけり山あうま

佛あふらうらうら

八神を拂ふ事方三平殿

入るる山へ入るる山

入るる山へ入るる山

入るる山へ入るる山

入るる山へ入るる山



110X
151
7